

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム ゆうゆう済民(姫神棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100139		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう済民(姫神棟)		
所在地	盛岡市済民字泉田178番地		
自己評価作成日	平成29年10月11日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&J_gvosvoCd=0390100139-00&PrefCd=03&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 10 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

暮らしの支援を軸に、できること、したいことの前向きな支援を中心に利用者さんの暮らしの質向上に努めている。管理者、リーダーだけではなく、職員個人、チームとして考え、行動し、振り返ることで職員個人の成長ややりがい、チームの成長、事業所の成長に繋がるように、試行錯誤しながら少しずつ前進している。地域の方も半数近く入所されており、可能な限り今までの生活の延長ができるよう幅広い視点と柔軟な考えをもちながら、認知症が先行するのではなく、人として真摯に向き合うように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の「尊厳を大切に」をもとに、利用者の「できること」「したいこと」の「思いをしっかり汲み取る」を事業所理念の基本姿勢として取り組んでいる。その成果を、毎月発行している「ゆうゆうだより」を通じて利用者の活動の姿を写真と1か月間の実践の様子の文章を付して細やかに家族に知らせる取り組みや、介護計画のモニタリングを一部の職員だけでなく、全職員で行い偏りのない評価、確認を行い、その中から新たな希望と発見を求める取り組みを行うなど、職員全員によるチームケアを行っている。また、入浴では、入浴日を定めず、また入浴時間を18時頃までと幅広く対応して、いつでも入浴でき、特に、就寝前の入浴希望に対応するため職員ローテーションを工夫するなど、利用者本位の視点の介護サービスに徹しており、今後に期待の持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ゆうゆう済民(姫神棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議でも理念変更について検討していくことを伝え、日々の支援で照らし合わせができるような具体的な理念を作成中。	法人の理念「利用者の尊厳を大切」を基に、事業所理念を平成27年度に職員間で話し合い「その人の思いをしっかりと汲み取り、真摯に向き合い」「地域の方々とのふれあいを大切に」を定め、日々のケアに活かすよう相談室等に掲示し意識づけを図り共有に努めている。なお、理念の見直しを現在検討中とのことである	毎月発行の「ゆうゆうだより」を通じ、利用者の個々の活動の様子を写真でお知らせするほか、「様子欄」に個々利用者の「出来ること」「したいこと」の実践状況の姿を担当者の文章を添えるなど、家族の安心につながる取り組みの更なる継続を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の利用者さんが増えており、可能な限り今まで通りのお付き合いを継続してもらえるように柔軟に支援している。	自治会への加入を申し出するも実現に至っていないが、自治会主催の敬老会や清掃活動に参加しているほか、自治会婦人部のミズキ団子づくりなどで訪問を頂くなどの交流があり、協力を頂いている。また児童センターの夏祭りに利用者の作品を出展したり、子供達がハロウィンで来所するなど、地域との付き合いが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までは至っていない。運営推進会議の場では発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のグループホームのみの機能だけでは満足した暮らしの支援が難しい方や、今後の地域課題ともなりえることを報告し、助言を頂いたりと一緒に考えてもらえるように努めている。	運営推進会議では、転倒や薬の飲み忘れ等のヒヤリハットや事故報告の他、虐待マニュアルの整備や人材の確保等の状況を取り上げている。加えて日常生活相談に係る取り組みや認知症の登録のSOSネットワークなどを話題に取り上げ運営の参考としている。なお、看護師を招き「感染症・食中毒予防対策」の講話を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、生活保護担当ケースワーカーへの相談や報告をしながら、幅広い視点での暮らしの支援ができるように連携に努めている。	主として地域包括支援センター職員を通じて権利擁護や入居待機状況等を情報交換している。なお、生活保護の手続きや介護認定に関して市担当者に相談して助言・意見をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も朝と夜のみで、日中は自由にでられるようになっていく。身体拘束はなく、グレーゾーンとなるような言葉や態度にもチーム全体で意識している。	内外研修等を通じて意識の向上を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関等の施錠はしておらず、感知するチャイムを設置するも自由に出入りができる。また、利用者2人程であるが転倒防止を目的として離床センサーを設置している。言葉による抑制についても職員間で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待になりえるかもしれないこと(不適切な関わり)も含め、早い段階で芽を摘むようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、実際利用している方、申し込み中の方もおり、今後増えていくことも予想されるため外部研修などを通じて理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始前にホームの方針や契約内容を伝え、改定時には書面や口頭で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さん、家族さんから意見や苦情がある場合は早めの対応を意識しており、会議の場でも議題としている。	玄関に苦情投書箱を設置したり、家族の来所時に面会簿(訪問記入票)の余白に苦情・意見等を記入していただくようにしており、「職員の挨拶が小さい」、「言葉遣いに気を付けて」などの意見に対し改善に向け取り組んでいる。遠方に住む家族には広報誌「ゆうゆうだより」を送付する際に、気づいた点の意見等を下さるようお願いしている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やキャリアパスの個人面談時に職員の意見を聞けるようにしている。情報をオープンにし開かれた運営となるように努めている。	毎月開催する職員会議や3カ月ごとに行う職員との個人面談(キャリアパス)の際の職員からの意見・提言を踏まえて、管理者は予算措置の伴うものは法人と協議し、事務所段階で対処できるものは直ちに具体化に努めている。例えば、車いすを増車したことで、車いす利用者の外出が可能になるなど、利用者のニーズに対応できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	29年度の処遇改善加算改正に伴い、加算率のアップと共に職員の勤務状況をふまえて給与見直しを実施した。働きやすい職場となるように、なまなま環境にならないようにチーム間で意識してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトにもよるが、今年度は外部研修への参加者を増やし、職員にあわせた内容ですすめている。事業所でも初心にたちかえることの勉強会も実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部へでることによって、視点を広げ事業所でいかに外部研修報告書のみではなく、会議の場でも報告、共有できるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境も変化するため、入所前に不安なことも含め話を聞き、真摯に向き合うことを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの希望することも聞きながら、本人主体となるように調整している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな暮らし方をしてきたか、今後どんな暮らしを望んでいるのかをアセスメントし、自立支援となるように職員間で情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしているのは利用者さんであり、職員はさりげなく支えていくことであることを意識している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族さんと繋がっていれるように、連絡を密にし、現状を理解してもらいながら協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入ったからで歩けないのではなく、今まで通りその人らしく暮らせるように柔軟に支援している。	これまでの馴染みの場所や人について、入居時にお話を訊くほか、入居後にも本人や家族から確認し把握するように努めている。理美容は行きつけのお店に行き利用者の要望に沿うよう支援している。利用者から行きたい場所の申出があった場合は時間調整を図りながら希望を叶えるよう対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士での関係性に職員は配慮し、見守ることと、時には間に入りながら共同で暮らせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば退去先への情報提供や、関係者と連絡をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中からでてくる思いを共有し、関係者へ協力をお願いしながら、その人の思いを大切にす支援をしている。	入居時に利用者の思いや希望を聞くほか、入居後においても利用者との日々の会話、表情や行動から利用者の思いや意向について把握するよう努めている。把握した内容は、送りノートに記録し、またミーティングで共有し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人、家族さんなどから情報収集し、入居後にでてくる情報も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあわせた支援(自立支援、ペースの尊重)をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングすることで、新たな思いなど幅広く計画に反映できるように努めている。	介護計画は、全職員によるモニタリングを行い、偏らない観察、評価に努め、気づかない新たな視点の確認や意見交換をしながら計画づくりに反映している。最終的には利用者家族の意見や、担当医師、看護師の意見等を参考にしながら介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはもちろんのことであり、気づきなどがあれば日誌にも記入し共有検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの多様化に柔軟にむきあうことを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら、普通の暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その時の状況にあわせた医療機関をおすすめし、適切な医療を受けられるように連携に努めている。	かかりつけ医の医療受診は家族の付き添いを原則としているが、緊急や家族対応が難しい時は、職員が付き添っている。協力医は3か所をお願いしているが、週1回の訪問看護、月1回の訪問診療を活用した医療連携を図り利用者の健康維持等に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問時の相談はしており、判断に迷う場合などにも連絡し相談、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供をし、早めの退院となるように病院へも経過などをききながら調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の方もいるが、ホームで可能な限り対応しており、その状態も主治医に相談しながら連携している。しかし、看取りとなると往診可能な医療機関が地域では難しい状況である。家族さんとも相談しながら希望する方があれば検討していく。	看取りを含め重度化にも対応できるよう「医療連携に対する指針」を定め、入居時に家族に説明しているが、開設以来、看取りの実績はない。今のところ看取りを希望する利用者はいないが、具体的に看取りとなった場合の医療機関の確保と職員のレベルアップに取り組みたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は受講しているが、実践となると難しい。経験を積み、学んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	近所の方へ避難訓練に参加してもらったり、職員1人で避難誘導をしたりと実際に想定しながら訓練をしている。又、暗くなってからの避難訓練も実施予定。	「消防計画」と「自然災害対策マニュアル」を策定している。消防署員が立ち合いのもとで、夜間想定での避難訓練を年2回行い、特に、職員1人で全員を誘導する訓練を行っている訓練には、近所の方に利用者の見守りをいただいている。特に、職員1人で全員を誘導する訓練を行っている。また、災害用として、反射式ストーブ、毛布、食料、ラジオ、懐中電灯等を準備している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇には意識しながら、馴れ馴れしさが先行しないように心がけている。	法人理念の「尊厳を大切」の姿勢で接するよう心がけている。トイレ誘導は、さりげなく、みんなの前で声掛けしないようにしている。「おせっかいはしない」を基本に、本人の意思を尊重し、利用者の立場に立ったケアに徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決めてもらうように声かけをしている。時にはおすすめることもあるが、無理強いはないように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とならないように、柔軟な姿勢で支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの好みのものを理解しながら、行事などへ参加する際には化粧をすすめたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	暮らしの支援として、買い物、料理、片付けをしておりその方のできる部分を見極めながら支援している。	献立は職員がつくり、食材は裏の畑で栽培した野菜も活用している。職員と一緒に買い出ししたり、料理や後片付けなども、できる範囲で役割を担っている。昼食時は、一斉ではなく、それぞれ思い思いの時間に席につき、職員と一緒に食卓を囲み、それぞれのペースでゆっくりとした雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあわせた食事形態で支援している。お茶や水がすすまない方もいるため好みのものをすすめたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用したり、その方の状態にあわせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔が空いている時や動作をみながら、トイレへの声かけをしている。	リハビリパンツや布パンツ、パッドをそれぞれ利用はしているが、適切なトイレ誘導の結果、日中は、寝たきりの方を除き全員が、また夜間はポータブル使用の方もいるが、殆どはトイレ排泄である。トイレの入りに「空いています」「入っています」との表示札を掲げ、利用者が利用しやすいように工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではなく、乳製品などを準備しておき、おすすめしている。自分で動けない方もおり便秘傾向になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めておらず、寝る前に入りたいと希望されるかたもいるため柔軟に支援している。	入浴日や入浴時間(18時頃まで)は定めずいつでも入浴できる状況にある。入浴を嫌がる利用者には、声掛けのタイミングや家族の協力を得ながら入浴している。入浴しないときは清拭等を行い、衛生面に配慮している。特に、就寝前の入浴は利用者の希望に合わせてため職員ローテーションを工夫している。入浴中は、利用者と職員がリラックスして会話するよう心掛けている。利用者の羞恥心にも配慮し、異性介助を希望しない利用者には、同性介助としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に本人のペースでおきたり、休んだりしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は副作用に注意し、必要性も含めて主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割ではなく、暮らしの一部であるという考えで、できることは自分で、時には外へでかけたりと普通の感覚で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買いたいものがある方には、時間を調整してもらおうこともあるが、希望に沿うようにしている。又、家族さんにも協力をもらいながら外出している方もいる。	日常的に近隣公園の散歩、大型スーパー、産直に出かけての買い物をしている。少人数で弁当持参のお花見、紅葉狩り、白鳥を見に行く等の外出を支援している。家族同伴で通院のため外出した利用者が家族と食事を楽しんでくる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんにも協力してもらいながら、できるだけ自分で支払いなどをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を使用している方、ホームの電話を借りたいという方、公衆電話を使う方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境には配慮しているが、利用者さん同士の繋がりや変化することでの混乱もあるため、利用者さんの状態にあわせている。	事業所内は、床暖房、加湿器、エアコン、神棚等が設備されている。居間兼食堂の照明が昼光色の電灯でホットな雰囲気を演出している。啄木作品の短歌、行事の写真等が展示されている他、利用者の好みに合わせ、テーブル、椅子、ソファを配置した居間兼食堂は、利用者が自由に寛ぐことができる居住空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のメリットでもある支えあいながらはできているが、反対に自己主張が出来ない方もいるため職員が間に入ったりとしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物をできるだけ持ち込んでもらっている。備え付けのタンス類の他にも本人が必要であれば家族さんに相談している。	居室には、ベッド、エアコン、クローゼット、床頭台が備え付けである。利用者は、ランニングマシン、冷蔵庫、テレビ、家族写真、タンス等、思い思いの品々を持ち込み、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂に貼り紙をしたり、テーブルの高さにも配慮している。		